

# しみん基金・KOBÉ NEWS

第 30 号

2013 年 8 月 発行



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203(サンピア2F) TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

## 東日本大震災から3年目を迎えた被災地の今・・・



あの日・あの時から3年目を迎えた今、被災地においては、被災者の気持ちが少しずつ変化したように考える。その変化は多様化してはいるが、今まで共にした家族がいないこと、これまでは空気のような存在であったが現実にはいないことを、改めて認識した寂しさが大きいようである。寂しさについて語る一言々の重みには、胸が締め付けられる思いである。

「妻がいるときには、無理ばかり言って一言の優しい言葉をかけることすらしなかった自分が今は情けない」「いま、自分の前にもう一度現れたら、しっかり抱きしめこれまでのことを謝り、もう一度幸せと一緒に感じ取りたい」等、3年目を迎えて始めて語る様々な言葉が被災地の中にある。被災地の中には悲嘆をひき起こす要因がある。その要因とは、①愛する人の喪失②所有物の喪失③環境の喪失④役割の喪失⑤自尊心の喪失⑥身体的喪失⑦社会生活における安全・安心の喪失などがあるが、これらの喪失感を抱いている方々が多い。そんな中で今、やっと語ろうとしているところまで来た。今まだ、家族が発見できず、捜し求めている方もおられる。「3年目を迎えたのに、まだ、母が見つからない。季節ごとに母のこれまでの思い出が胸に浮かぶ」「8月には帰ってきてほしい」と語られる言葉の奥に、震災の傷跡の深さを思いしらされる。また、生き残り、仮設住宅で暮す人々においては、復興について次のように語っている。「復興ってあるのか。いつになれば再建の目途がつくのか。」「いつまで仮設の中にいればよいのか。」と。災害が起きる度に、被災地のあちこちの仮設住宅を歩み、被災者と共にする中で思うことは、多様な悲嘆を抱えながら日々の生活を送っていらっしやる被災者にとって、時間軸の中での動きは止まり、生活再建は立ち往生しているように思える。被災地でも地域性があり様々である。重要なことは、被災者の生の声をしっかり聴く姿勢であり、また、声なき声をどれだけ尊重できるか。そして、見えるものばかり追わないで、見えないものを見てそこに寄り添えることが出来、微力ではあっても支援の手を差し伸べられることが大切であると考えます。

しみん基金・こうべは、平成24年度に長期的な視野に立った支援のしくみとして「東日本大震災被災者支援ボランティア活動基金」(愛称、ずっと・こころ・つなぐ基金)を創設した。そのためには真に被災者に寄り添えるボランティアが、一人でも多く現地に行かれる為の生きた資金集めに勢力を注ぎたい。

また、人間不在にしない、人と人が向き合うことが出来る、そして、一言の重みを感じ取ることが出来る方達と共に、当基金は今の被災地・被災者とずっとこころを繋ぐことができるように、基金の内容を成熟させ、被災者のこころに真に寄り添えるしみん基金・こうべでありたいと考える。皆様のその優しいお気持ちをしみん基金・こうべに向けてくださることをお願い申し上げます。

(特活)しみん基金・こうべ 理事長 黒田 裕子

### 主な目次

- |                               |                                   |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| ◆ 平成25年度定時総会報告----- 2~3       | ◆ 「ずっと・こころ・つなぐ基金」上映会ご報告 -----6    |
| ◆ 平成25年度はあ~ふるファンド結果報告----- 3  | ◆ 平成25年度しみん基金 KOBÉ 助成事業ご案内----- 7 |
| ◆ 平成23年度助成事業・助成先団体の成果報告---4~6 | ◆ 18年目のひとり言 ----- 8               |

# 特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

## 平成25年度定時総会報告

平成25年5月30日(木)18:30より当基金事務所に於て平成25年度定時総会を開催し、(1)平成24年度事業報告並びに決算報告、(2)平成25年度事業計画並びに予算計画、(3)基本財産の取り崩しについて、出席正会員数24名(委任状14を含む、正会員総数41名)で審議を行い、承認されましたので、ご報告申し上げます。概要は以下のとおりです。

### ① 平成24年度事業報告並びに決算報告

- 平成24年度は延べ29の個人又は団体より、総額2,575,594円の寄付・募金を託して頂きました。  
新規事業としましては東日本大震災被災者支援ボランティア活動を支えるための「ずっと・こころ・つなぐ基金」を創設し、1ヶ月に約1回ペースで上映会&トークサロンを行い、昨年6月のキックオフイベントを含めて、約50万円の募金をお預かりすることができました。  
その他すべての暖かいご厚志をお寄せいただきましたことに対して、心より御礼申し上げます。
- 平成24年度の助成事業では、8団体(一般枠;4団体、特定枠;4団体)に総額¥2,990,000の助成金を交付しました。
- 兵庫県の「地域づくり活動支援事業」の委託を受けて、新野幸次郎氏(神戸都市問題研究所・理事長)と東京から脇坂誠也氏(NPO 会計税務専門家ネットワーク・理事長)をお招きして、寄附文化醸成セミナーを2回開催しました。

### ◆平成25年度収支決算(概要)

＜経常収支の部＞	
【経常収入】	5,326,039
事業収入	1,962,875
会費収入	578,000
寄付金・募金収入	2,575,594
その他の収入	209,570
【経常支出】	8,464,062
事業費	4,142,523
管理費	4,321,539
経常収支差額	△3,138,023
前期繰越収支差額	10,082,500
次期繰越収支差額	6,944,477
＜正味財産増減の部＞	
【正味財産増加の部】	2,398
【正味財産減少の部】	3,138,023
当期正味財産増加額	△3,135,625
前期繰越正味財産額	35,162,556
当期正味財産合計	32,026,931

### ② 平成25年度事業計画並びに予算計画

- 来る震災20周年の2015年に向けて“社会に向き合う「参画」と「連携」を深める”というコンセプトを掲げ、まちの中でどこでも楽しく気軽に募金ができる多様なしかけづくりの推進と、支援者参加型の助成プログラムの構築、困難な社会的課題の解決のために分野やセクターを超えた連携のコーディネートを進めていきます。
- そのために、人員補強・事務所整備・新会計基準の導入・役員等の役割分担明確化と補充の検討・中期計画案の具体化など組織基盤整備を行い、同時に上記の寄附のしかけづくりのための関係構築・企画づくり・試行を複数行うことで、収入構造の基盤づくりに取り組みます。

### ◆平成25年度基本方針

平成24年度を振り返ると、まずは、2011年3月11日に発災した東日本大震災の復興へ向けてのあゆみは踊り場状態が続き、被災者の生活再建は立ち往生している、また、被災者支援のニーズは多様化している一方、被災地外での関心が薄れつつある、という状況であった。

しみん基金・こうべでは、この状況に対して長期的な視野に立った支援のしくみとして「東日本大震災被災者支援ボランティア活動基金(愛称:ずっと・こころ・つなぐ基金)」を創設し、震災関連のドキュメンタリー映画の上映と被災者支援のボランティア活動をしている人たちとの対話のつどいを複数回開催し、被災地を忘れていない、というメッセージを発信しながら、基金への寄附を呼びかけてきた。合わせて、被災者を支援するボランティア活動へ助成する特定枠を設置し、従来からの一般枠と合わせて、引き続き「次代の市民活動の担い手育成を重視する」というテーマを掲げながら、助成事業を実施した。

そして、10月に開催した公開審査会の結果、上記のとおり助成金を交付し、助成を受けられた団体の活動を通じて、18年前のKOBENでの経験が、このたびの震災被災者支援に活かされるようになってきた。

また、兵庫県の「地域づくり活動支援事業」の委託を受けて、「寄附文化醸成セミナー」を2回にわたって開催し、平成24年度から施行された寄附税制改正の意義と改正点のポイント、それを受けてのNPOが寄附集めをはじめる前へ準備しておくべきことについて、啓発活動を展開した。

\*

しかし、一方で寄附金額を増えやすことができず、多様な寄附機会の提供などの寄附受入拡大策もほとんど捗っていない。また、認定NPO法人格取得についても、準備を進めることができないままであった。そこで、この状況を変えるために、向こう3年間の中期計画案策定に着手し、“社会に向き合う「参画」と「連携」を深める”というコンセプトの下、次

に掲げる3つの目指すべき方向性を設定することにした。

- 1) 助成先選考のプロセスに支援者を参画させる
- 2) 気軽に小口で多様な寄付機会をつくる
- 3) 多様なセクター間の連携で社会課題解決に立ち向かう

この実現のために、まず平成25年度は、組織基盤の再構築と寄附受入拡大策を重点に据えて、3年後に近年続けてきた赤字体質からの脱却を目指すこととした。

今年度の事業計画では、まずは事務局機能の整備を受けて、認定 NPO 法人格取得に取り組むなど組織基盤の強化を図り、引き続き被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠の設置やフォローアップ力の強化など助成事業の充実化を図るとともに、多様な寄附機会の開拓・企画・提供や寄附者にわかりやすいホームページの改訂などのファンドレイジング力の強化に取り組み、またこれらの実現するためのネットワークを築いていくことに力を注ぐことといたします。

◆平成25年度事業計画(概要)

- 1 助成事業
  - ア) 本体助成事業
    - イ) はあ〜とふるふあんど支援事業(受託事業)
- 2 社会貢献活動促進事業
  - ア) 青少年フィランソロピー意識醸成支援
    - イ) CSR 活動支援
- 3 寄付・募金活動
  - ア) 直接寄付
    - イ) イベント募金(こうべあいウォーク、ずっと・こころ・つなぐ基金上映会&トークサロン等)
    - ウ) 職域募金(あじさい基金等)
    - エ) 協働企画寄付システム(古着リサイクル寄付等)
    - オ) 寄付ページの改訂、新寄付システムの企画等
- 4 啓発・講座事業
  - ア) ひょうご NPO マネジメント講座
    - イ) アドバイザー派遣事業・講師派遣等

- 5 運営・管理
  - ア) 組織管理(中期計画策定、役員役割分担・メンバー構成の検討等)
  - イ) 雇用環境整備・人材育成等
  - ウ) 基盤整備(会計処理方法の見直し、認定 NPO 法人取得準備、情報環境整備等)
  - エ) 情報発信
  - オ) ネットワーク活動
  - カ) 理事会・四役運営会議

◆平成25年度収支予算(概要)

【経常収入】		7,000,000
会費収入	1,250,000	
事業収入	1,900,000	
寄付金・募金収入	3,600,000	
その他の収入	250,000	
【経常支出】		9,850,000
事業費	4,704,000	
管理費等	5,075,000	
経常収支差額		△2,850,000

③ 基本財産の取り崩しについて

平成25年3月末時点で、運用財産は700万円を切りました。このままでいくと年度内に、運用財産が底をつく可能性があります。それについて審議を行い、下記のとおり決議いたしました。

「組織基盤と資金調達力を強化させて事業の継続性を確保するために、やむを得ない場合に限り、基本財産のうち上限500万円までの金額を、理事会の判断で、運用財産に繰り入れることができることとする。なお、上記のような場合でも繰り入れる金額は、最低限必要な額に限ることとする。」

※事業報告等の詳細は、当基金 HP に掲載予定です。

## 平成25年度 はあ〜とふるふあんど支援事業結果報告

平成25年1月7日～3月8日に申請受付しました「はあ〜とふるふあんど」支援事業に、今年は182団体からご応募を頂きました。「はあ〜とふるふあんど実行委員会」による厳正な審査の結果、下記の46団体に支援金を交付することになりましたので、ご報告いたします。なお、6月14日(金)にクラウンプラザホテル神戸で、下記団体の皆さんにご出席頂き、贈呈式を行いました。

【ふるさと振興サポート部門】(22団体)

ふれ愛の郷・かがやき、「鳴門のうず潮」世界自然遺産登録推進協議会、三田ジュニアバンド、天晴！舞道連、多文化共生センターひょうご、(特活)まちかど、西宮能楽普及協会、「スポーツクラブ21とよおか」五荘クラブ、神河町観光協会、兵庫県アームレスリング連盟、淡路島・南海島サッカー交流実行委員会、(特活)スポーツクラブ21はりま、朝来プロジェクト推進協議会、見野古墳群保存会、アスタ新長田スティールパン振興会、六甲山大学実行委員会、神河町商工会、アンサンブル神戸、楠公武者行列実行委員会、市川町商工会、(特活)淡路島活性化推進委員会、(特活)日本渚の美術協会神戸教室

【ボランティアあしすと部門】(24団体)

夢一座、兵庫県聴力言語障害者連合会、(特活)神戸定住外国人支援センター、珍ちくりん劇団、ボランティアグループ「うたの街」、一般社団法人日本障害者乗馬協会、なかよし会、(特活)ふくろう、ちどり文庫、女声コーラスフィオーレ、姫路学童保育連絡協議会、ひょうご自然教室、兵庫県中小企業団体中央会、車椅子ダンスひめじ、宝塚市第5地区民生児童委員協議会、(特活)さんびいす、(特活)おしやれdeげんきに訪問ヘアーカットサービス、子ども未来ネット北播磨、燿窯陶芸倶楽部の会、(特活)放射線問題をのりこえ世界一の福島を創る会、For Lifelong Style、(特活)創作工房ゆう さをり工房ゆう、社会福祉法人稲美町社会福祉協議会、お昼のつどい調理ボランティアさくらんぼ



平成23年度助成事業成果報告会のご報告



2012年12月6日(木)14:00から、平成23年度助成事業(助成対象期間:平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)の締めくくりとして、助成先団体による成果報告会をコミスタこうべにて開催しました。これは、


- (1)各団体の事業によって得られた社会的な成果を、当基金への寄付者や審査プロセスにご協力頂いた皆様をはじめ一般市民に向けてフィードバックする
- (2)民間による公益的活動を市民自らの力で支えることの大切さを分かち合い、今後に向けて寄付の文化を創造するために改善すべきポイントを導き出す


(3)各団体報告を傾聴することで新しい気づきや学びと出会いやネットワークづくりのきっかけに活用して頂くということをねらいとしています。


当日は多数の方々にご参集頂き、皆様からその活動内容と社会的成果、その後の展開についてご発表頂き、合わせて参加者からの激励のコメントを頂き、また当基金へのご要望をお聞きしました。


このように広範な分野の活動の実践者が集い、意見交換ができましたのも、当基金へご寄付を頂きました皆様方のおかげでございます。改めて、心より厚く御礼申し上げます。

◆助成先団体の事業成果(概要)とメッセージ(抜粋)～ご寄付はこのように活用されました。


① 兵庫県手話サークル連絡会 事業名: 県サ連ブロック学習会・研修会	神戸市中央区  <p>&lt;事業の成果&gt;                      研修会、ブロック学習会全体を通して、県下のサークルが積極的に、元気に活動できる場を提供できた。また、サークルが障害当事者である聴覚障害者と共に活動する場であることを改めて確認することができる学習会になった。</p> <p>&lt;メッセージ&gt;                      ボランティアリーダー養成については少しずつ成果があがっているが、更に質の高いリーダー養成のためにはもう一步踏み込んだ集中型の学習が必要かと思われる。今後の課題として取り組みたい。</p>
---------------------------------------	--


② 点訳グループ ともしび 事業名: パソコンによる点訳奉仕グループ	加古川市  <p>&lt;事業の成果&gt;                      パソコンが増えて効率が良くなり、作業がはかどるようになってきた。技術効率の向上、みんなの努力・協力を継続していき、後継者の持続育成をはかりたい。</p> <p>&lt;メッセージ&gt;                      念願のパソコンを購入することができて本当に感謝しております。今後、いろいろな情報が得やすくなると思いますが、やはり展示を必要とされる視覚障がい者のために少しでも貢献していきたいと思っています。</p>
---------------------------------------	---


③ ひよどり台エコタウンクラブ「エコミズプロジェクト」 事業名: ミミズ飼育による生ゴミ減量化プロジェクト	神戸市北区  <p>&lt;事業の成果&gt;                      一般家庭から出る生ごみの削減効果は1年間千戸当たり、2トンパッカー車に換算すると、141台分の稼働が削減される。2真菜ゴミから出るCO2削減効果は1年間千戸当たり120トン減少される。</p> <p>&lt;メッセージ&gt;                      「ミミズを飼って地球を救おう!」という、ちょっと大胆なキャッチフレーズではあるが、これをキーワードに地域活動を進めています。</p>
--	--

④ 兵庫県喉摘障害者福祉協会神鈴会 事業名: 喉摘者の代用音声発声指導員のスキルアップ養成研修	神戸市中央区  <p>&lt;事業の成果&gt;                      研修会を開くことにより、個々の指導力のアップに繋がった。また指導員の世代交代を積極的に図り、教室運営のマンネリ化の回避が図られた。</p> <p>&lt;メッセージ&gt;                      指導員の高齢化、後継者不足、意識の希薄さ等の問題がありますが、このような機会を積極的に設け、指導力を向上させ、喉摘者の社会参加促進に寄与して参ります。</p>
--	--




⑤ 神戸大学灘地域活動センター	神戸市灘区
事業名：災害復興住宅住民と周辺地域住民でのコミュニティ形成支援事業	
	<p><b>&lt;事業の成果&gt;</b>                  新たに生まれた関係性が日頃の生活に繋がっていたり、お互いのイベントや活動を手伝い合うことで、学生と地域や他団体のつながりが深まった。</p>
<p><b>&lt;メッセージ&gt;</b>                  高齢化が進み、なかなか外に出てこれられない方も増えてきていますが、茶話会前後に戸別訪問を行い、お宅に伺ってゆっくりお話をしたり、イベントで作ったものをお渡ししたりしています。茶話会での繋がりを基に、今後も戸別訪問活動を大事にしていきたいです。</p>	

⑥ (特活)あんだんてK O B E	神戸市灘区
事業名：知的障がい児・者余暇活動支援事業～グループ音楽活動をとした余暇支援と交流活動～	
	<p><b>&lt;事業の成果&gt;</b>                  定期的活動の場を提供できた。会員の増加、ボランティアの加入、そして発表することにより団体の認知度が</p>
<p>高まった。音楽療法研究における事例研究として活動内容の有効性が認められた。</p> <p><b>&lt;メッセージ&gt;</b>                  知的障がい者の QOL の向上、余暇支援活動として彼らの生活サイクルの中に組み込まれることや、グループ活動を通して自己表現を促すと共に仲間意識を持ち、コミュニケーション力を広げることを目指します。</p>	

⑦ とびまつ森の会	神戸市須磨区
事業名：自然に学び、エコを活用する“里山づくり”を次世代に伝える	
	<p><b>&lt;事業の成果&gt;</b>                  子ども達を対象にした各種イベントと、新たに日本ミツバチ養蜂で「みつばち博士」が育っている。</p>
<p>「エコ水遣りシステム」の完成で700本の苗木を育てる「豊かな自然を保全する手法」を次世代に理解してもらい、次代につなぐ道筋ができた。</p>	
<p><b>&lt;メッセージ&gt;</b>                  学校林という限られた環境だが、都市部の子ども達が森に入り、自然と触れ合うことで貴重な遺産を維持管理することの難しさが少しわかった気がする。</p>	




※⑧(特活)花と緑のネットワーク川西『お家で出来る生ゴミの堆肥化』普及無料講習会』事業につきましては後日ご報告いたします。

⑨ トモニプロジェクト	神戸市灘区
事業名：気仙沼復興支援プロジェクト	
	<p><b>&lt;事業の成果&gt;</b>                  復興イベント参加者約400人。イベント開催をきっかけに、気仙沼地域の支援をはじめた神戸の支援団体もあった。</p>
<p>何より参加団体の支援継続の力になり、今後の支援活動のヒントにもなった。</p>	
<p><b>&lt;メッセージ&gt;</b>                  気仙沼の仮設店舗との協働で、復興グッズを開発した神戸市長田区の店舗もあり、小さな成果を上げると書ききれないぐらいあります。人と汗を流して、交流することの大切さ、その可能性を改めて感じました。</p>	

⑧ 災害支援団体 チーム神戸	神戸市長田区
事業名：東日本大震災の被災地における『コミュニティサロン』創設	
	<p><b>&lt;事業の成果&gt;</b>                  チーム神戸の「ふれあいサロン」の活動が2012年3月終了後も、サロンにおける近隣住民の方の手芸教室の継続が決まるなど、まちが更地ばかりになる中でも、それが将来的には好転するだろうと考えられるだけの材料はそろいつつある。</p>
<p><b>&lt;メッセージ&gt;</b>                  微弱な潮流でしかないのかもしれませんが、その中でも自主性・主体性が発生しつつある、というのが現状であると感じています。</p>	


⑩ (特活)よろず相談室 神戸市東灘区  
 事業名:つらさ共有 傾聴ボランティア —被災経験者・若者による被災者支援事業—



**<事業の成果>**  
 石巻市蛇田地区の社会福祉協議会の人たち、気仙沼市の気仙沼復興協会の人たちと仮設訪問ができるようになったことは、地元の人々が地元の人を支援する仕組みができていくことに繋がる。

**<メッセージ>**  
 今後、他地域で大震災が発生した時、東北の人やそこに住む人々は、現在と同じように忘れず全国から支え続けてもらえるのでしょうか？東北を忘れないことが、私達に必要なのだとつくづく思います。

⑪ (特活)ダンスボックス 神戸市長田区  
 事業名:いわき・神戸 高校生プロジェクト



**<事業の成果>**  
 教育機関や文化施設等の領域や、また演劇やダンスという表現手段を横断してのプロジェクトとなったことで、様々な層の人々が関わることのできる場となった。

**<メッセージ>**  
 プロジェクトを進めるために、たび重なる過程を踏んでまいりました。このプロセスの中で、目を見張るのは、高校生達の成長ぶりです。初めてであった7月のワークショップ以来、大人へと成長していく過程にいる高校生と協働することができました。



## 「ずっと・ところ・つなぐ基金」上映会&トークサロン ご報告&御礼

「ずっと・ところ・つなぐ基金」は、東日本大震災の被災者支援のためのボランティア活動を長期的支えるしくみとして、平成24年度に創設しました。

「ずっと・ところ・つなぐ基金」上映会&トークサロンは、この基金への寄附の呼びかけと、被災地から遠く離れていて風化しがちな意識を、映像を通じて振り返り、実際に被災地に入られて支援活動をされている人たちのお話をお聴きして、今感じている想いを共有し、それをKOBE発の災害支援ボランティア活動団体に託すことで、被災者支援につなげていくことを目指して、ニュースレター29号記載分以降、下表のとおり実施してきました。

この間ずっと上映している「禁じられた大地・フクシマ」は、フランスの震災被災者支援団体「Association GANBALO」制作で、原発事故1年後の2012年3月に福島を取材し、複数の人たちのインタビューなどで構成されたドキュメンタリー映画です。1月には、この作品の監督の栗本一紀さんに神戸に来て



いただきまして、制作の背景やその後の福島状況について語っていただきました。

たくさんの方々のご協力で、平成24年度は約50万円の協賛金及び募金を集めることができました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

なお、今後ともこの映画の上映会を、協働して各地で開催したいと考えています。ご希望の方はしみん基金・KOBEまでご連絡をお願いします。

日付	場所	上映作品	共催者(ゲスト・スピーカー)
平成25年1月21日	神戸市長田区	「禁じられた大地・フクシマ」	栗本一紀監督
3月11日	神戸市中央区		被災地NGO協働センター
3月11日	神戸市中央区		3.11神戸からの祈り実行委員会
3月16日	たつの市		たつの市社会福祉協議会御津支部
3月30日	加古川市		東はりまNPOネットワーク
4月27日	神戸市中央区		神戸国際支縁機構
4月29日	神戸市中央区		市民社会フォーラム
5月19日	大阪府吹田市		(特活)しみんネットすいた
6月28日	尼崎市		カフェ・Haretoke

## 平成25年度しみん基金こうべ・助成事業のご案内

しみん基金こうべの助成事業が今年も始まります。地域の中で様々な障壁に立ち向かいながらも、社会的課題の解決に自律的に取り組んでいこうとされる市民活動の芽生えを、市民自らの手でお互いに支えあい大切に育てていこうという「草の根」支援が当基金の精神です。

過去13年間で、延べ144団体に累計約5,100万円以上の助成金を交付してきました。この財源は、市民一人ひとりからの暖かいお志によるもので、助成先選考にあたっては市民目線での審査を公開の場で実施してきました。

今年も、「次代の市民活動の担い手育成を重視する」という年度基本方針を掲げ、総額300万円の助成金交付を予定しています。また、従来からの分野を限定しない一般枠とともに、「ずっと・こころ・つなぐ基金」(P6参照)に積み立てられた基金も活用して、被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠を設置します。また今年度も、申請書を作成されるにあたっては、申請団体向けに個別相談会(要予約)も実施します。

応募要項の概要は以下の通りですが、詳細は応募要項(「助成のしおり」)がございますので、ご連絡頂ければご送付します。また、当基金のホームページからもダウンロードできるようにしていますのでご活用下さい。応募要項をご熟読いただいた上で、ご応募いただきますようよろしくお願い申し上げます。

### ◆概要

- ①助成額:1団体あたり事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。
- ②選考方法:原則として、書類審査・ヒアリング調査の上、公開審査会でのプレゼンテーションにより決定します。
- ③助成対象:神戸市及びその周辺地域に住所を有する非営利団体(法人格の有無は問いません)
- ④助成枠:ア)一般枠:活動分野に限定はありません。  
イ)特定枠:東日本大震災で被災した人々を支援するボランティア活動に限定します。
- ⑤優先事項:選考にあたっては、市民社会の確立・存続にふさわしい草の根性、開拓性・先駆性、団体としての継続性、地域との連携・協働を図るものを、優先します。

### ◆スケジュール

- 平成25年7月22日～8月27日:個別相談会(原則要予約)  
7月22日～8月30日:応募申請受付期間  
9月中旬:書類審査  
9月下旬～10月上旬:ヒアリング調査  
10月28日:公開審査会  
11月上旬:覚書締結・助成金交付
- \*
- 平成25年10月1日～平成26年9月30日  
:助成事業実施期間・中間ヒアリング  
平成26年10月末日:最終報告書提出  
平成26年12月頃:助成事業成果報告会

## しみん基金・KOBÉの活動報告(2013年4月～6月)

### 【アクティビティ】

- 4月3日 はあ〜とふるふぁんど実行委員会・予備審査会  
4月15日 県地域づくり活動支援事業・完了検査  
4月19日 スタッフ公募(～5月10日)  
4月27日 「禁じられた大地・フクシマ」上映会@神戸バイブルハウス  
4月29日 「禁じられた大地・フクシマ」上映会@元町映画館  
5月8日 はあ〜とふるふぁんど実行委員会・本審査会  
5月19日 「禁じられた大地・フクシマ」上映会@吹田市立公益活動センター  
5月27日 スタッフ公募・役員面接  
5月31日 神戸市と中間支援NPOの意見交換会  
6月7日 宮城復興連携センター・調査報告  
6月12日 自治体SR調査報告会@大阪  
主催:IIHOE 参加:江口  
6月13日 関西NGO協議会・助成プログラム創設相談  
6月14日 はあ〜とふるふぁんど支援金贈呈式  
@クラウンプラザ神戸

- 6月17日 新スタッフ・戸田香苗さん勤務開始  
6月19日 認可地縁団体に係わる勉強会@ひょうごボランティアプラザ 参加:江口・戸田  
6月21日 神戸市と中間支援NPOの意見交換会・作業部会  
6月28日 「禁じられた大地・フクシマ」上映会@Café Haretoke

### 【会議等】

- 4月8日 平成25年度第1回四役運営会議  
中期計画素案、事務局人員、今後の日程  
4月26日 平成25年第2回四役運営会議  
平成24年度事業報告・決算報告、平成25年度事業計画・予算計画、役員役割分担  
5月7日 会計監査(佐藤・森田監事)  
5月15日 平成25年度第1回理事会  
平成25年度定時総会に付議する事項、審査員選任について審議  
5月30日 平成25年度定時総会(詳しくはP2-3参照)



## 18年目のひとり言 ～ぶれない～



先日行われた参議院議員選挙は自民党の大勝に終わり、民主党は議席を大幅に減らし、野党第一党の地位さえ危ぶまれる事態となった。前々回の衆議院議員選挙で大勝し、政権交代を果たしてからたった4年で、このような状況に陥ってしまった原因は何だったのか。

90年代に日本社会党(現在の社民党)にも同様な事態が起こっている。新党ブームに沸いた94年、自民、社会、さきがけによる連立政権(村山政権)が成立した。その際に首相を輩出した日本社会党は、安保条約肯定、原発肯定、自衛隊合憲など、それまでの姿勢を180度転換させた。その為、求心力を一気に失い、その後分裂、現在の社民党に至っている。現在の民主党議員にも旧日本社会党出身者がいるのだが、結局、政権与党になった後、政権公約を尽く翻した姿に、国民は失望し、昨年政権を失った今回でさえ、再建の糸口すら見出すことが出来なかった。

双方に共通して云えることは、最も重要な国民(支持者)との約束事に対する姿勢がぶれてしまったことだろう。

私たち市民活動(NPO)も同じだ。取り巻く環境の変化に対応しつつ(最近ではソーシャルビジネス化などと云われているが)、そもそも誰の為に、何のために、誰のお陰で存在しているのか、社会に対するぶれない姿勢を貫くことが重要だと感じている。

(特活)しみる基金・こうべ 専務理事 瀬戸口仁三郎

### 会員数とご寄付のご報告

- ◆正会員 個人 37名 団体 4名
- ◆賛助会員 個人 36名 団体 9名  
(2013年6月末現在)
- ◆寄付・募金合計金額 172,706円
- ◆寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)  
オレンジスリフティー、飛田雄一、中島秀男、黒田裕子  
「禁じられた大地・フクシマ」上映会会場における募金  
(2013年4月～7月)

暖かいお志に対して、心より御礼申し上げます。

「しみる基金・KOBÉ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
団体会員 年間 10,000円

お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892  
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921  
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854  
郵便振替 00990-5-157334  
口座名義 「しみる基金・こうべ」



### ◆ あとがき ◆

今春から事務所内の整備を始め、少しは綺麗な事務所になってきました。6月中旬から新しいスタッフも加わり、3ヵ年計画の推進が始まりました。

みんなで学び合い、みんなで語り合い、みんなで汗を流す、そして、その成果をみんなで分かち合う、そんな社会にしていきたいと思います!(え)

### 【お詫び】

例年、前年度の助成事業による成果報告を掲載したニュースレターを4月頃に発行してまいりましたが、今年は諸般の事情で、大変遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

★次号の予告(2013年11月頃発行予定)

・平成25年度しみる基金 KOBÉ 助成事業の結果報告など